

小山町立すがぬまこども園評価「自己評価書」

1 教育・保育目標

金太郎のように心ゆたかでたくましい子  
知—考える子 徳—やさしい子 体—元気な子

2 重点目標及び具現の方策

重点目標 「げんきいっぱい のびのび遊べる子」  
 具体的方策  
 ・乳幼児一人一人の思いに寄り添い、安心して遊び、自己発揮できるように援助を工夫する。  
 ・身近な人や物・事とのかかわりを大切にし、直接体験や感動体験をとおして豊かな心を育む。  
 ・子ども・保護者・保育者・地域との連携を図り、教育効果を高める。  
 ・保護者とのコミュニケーションを図ったり、地域の子育て家庭とのかかわりを持つ機会を作ったりして、共感・共有し子育ての支援を行う。

3 項目別評価

評価項目	項目別評価	評価の理由	職員アンケート結果	保護者アンケート結果
教育目標・園目標	B	保護者からの評価は高いが職員一人一人が意識して保育をしていく必要がある。	B	A
保育計画・教育課程	B	子どもの実態に合わせた育てたい姿やねらいをもち、見通しをもった計画や実践をしていきたい。	B	A
保育指導	B	子どもの姿に沿った環境の工夫や見直し、振り返りなどを積み重ねていく必要がある。	B	A
研修	B	内容としては語り合いができ充実したが時間の確保が難しく、計画的に進めることができなかった。	B	
特別支援教育	B	支援が必要な子どもに対する特性の把握や一貫した支援について職員での共有を深めていきたい。	B	
安全管理	B	水道やテラスなど安全面について職員全員で配慮していく必要がある。	A	A
保健管理・食事	B	専門職がいるため、相談をしながら行うことができた。	B	A
組織運営・情報管理	B	I C Tについて誰もが使えるようにしていきたい。	B	A
保護者・地域との連携	B	地域への発信の工夫と、活動のねらいや子どもの学びなど保護者に対しても知らせていく必要性を感じるため。	B	A
施設・設備	B	保育室や園庭で環境構成の工夫をしていく必要がある。	B	A

- (注) 1 評価表示方法「A：十分達成されている、B：達成されている、C：取り組まれているが、成果が十分ではない、D：取組が不十分である」
- 2 「職員アンケート結果」は、項目別評価用アンケートを集計したものである。
- 3 「保護者アンケート結果」は、項目別評価用アンケートのうち「わからない」と回答したものを除いて集計したものである。
- 4 「項目別評価」は、「職員による評価」及び「保護者による評価」をもとに、職員で話しあって決定したものである。

#### 4 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組み方法
教育課程 保育計画	各クラスのねらいや目標、クラスの実態や現状を園全体で共通理解できる場を職員会議などで設け、見通しを持って計画的な保育を行えるようにする。
研修	テーマに沿った研修のまとめとして2月に発表を行った。まとめていく過程で成果も多く、保育者の自信や保育の向上につながった。しかし、時間が確保しにくいという課題もあり、今後は研修委員を中心に計画的に行っていきたい。
特別支援教育	支援が必要な子どもに対し、関わりや思い、支援の方向性が同じになるようC.Oが中心となり、園内支援委員会を重ね、共通理解を深めていくようにする。

#### 5 評価全体を通して（総評）

総合評価	評 価 の 理 由
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己を謙虚に捉えた評価であった。</li> <li>・職員間の情報共有について職員会議を数回に渡って行ったことで職員全員の共通理解につながった。また、他のクラスの活動にも関心をもて、園児の育ちについての共有もできた。これらが安心・安全な園経営につながり、報・連・相を意識した取組みが向上した。</li> <li>・園生活の様子をICTを活用して保護者へ発信することで、親子の会話が増え、保護者も園に対する関心が深まり、園と家庭との信頼関係が深まった。</li> <li>・職員間で保育を語り合うことが増え、自身の保育の振り返りや気づきにつながるなど学びが多くなったと感じた。</li> <li>・今後は更に研修を深め子どもの実態に合わせ、ねらいや見通しを持ち、計画的な保育を展開できるようにしていきたい。</li> <li>・保護者の評価は高く、園を信頼し安心して登園させているという気持ちがわかった。今後も保護者との会話や園生活の様子を工夫し、発信していくとともに、更に本園の良さをアピールしていきたい。</li> </ul>